



2013年3月期 第2四半期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2012年10月29日

執行役員 佐川 雅彦

執行役員の佐川でございます。

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2013年3月期 第2四半期の決算概要についてご説明いたします。

エグゼクティブサマリ

I. 2013年3月期 第2四半期 決算概要

- 半導体売上高は、第1四半期に情報システム統合の影響により一時的に減少したが、第2四半期には同影響が解消し、大型カスタム案件が牽引したことから、前四半期比22%増の2,053億円
- 営業損益は、売上増に伴う利益増、研究開発費(R&D)の効率化、販売費及び一般管理費(SG&A)の抑制などにより、前四半期比で119億円の改善

II. 2013年3月期 通期業績予想

- 2013年3月期 通期の連結業績予想は前回予想(8月2日公表)を据え置き

III. 人的合理化施策と生産構造対策の進捗状況

- 国内における早期退職優遇制度の実施により、第2四半期において約840億円の特別損失を計上した一方、年間約530億円の人件費削減効果を見込む
- ルネサスハイコンポーネンツ(青森工場)の譲渡決定を発表するなど、生産構造対策は着実に進展

IV. 財務基盤の強化に向けて

- 主要株主及び主力取引行より970億円の新規融資及び保証金を確保、短期借入金の長期への借り換え(1,611億円)を実現するなど、財務基盤を着実に改善

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

第一に、2013年3月期 第2四半期の業績についてです。

半導体売上高は、第1四半期に発生した情報システム統合の影響により一時的に減少しましたが、第2四半期には同影響が解消し、大型カスタム案件が牽引したことから、前四半期比22%増の2,053億円となりました。営業損益は、売上増に伴う利益増、研究開発費の効率化、販売費及び一般管理費の抑制などにより、前四半期比で119億円改善しました。

第二に、通期の業績予想については、本年8月2日に公表した予想を据え置いています。

第三に、人的合理化施策と生産構造対策の進捗状況についてです。国内における早期退職優遇制度の実施により、第2四半期において約840億円の特別損失を計上した一方、年間約530億円の人件費削減効果を見込んでおります。また、ルネサスハイコンポーネンツの譲渡決定を発表するなど、生産構造対策は着実に進展しています。

第四に、財務基盤の強化については、主要株主及び主力取引行より970億円の新規融資及び保証金を確保し、短期借入金の長期への借り換えを実現するなど、財務基盤を着実に改善しています。

I. 2013年3月期 第2四半期 決算概要

それではまず、2013年3月期 第2四半期の決算概要についてご説明いたします。

2013年3月期 第2四半期 決算概要

- 半導体売上高は、第1四半期に情報システム統合の影響により一時的に減少したが、第2四半期には同影響が解消し、大型カスタム案件が牽引したことから、半導体売上高(22%増)、営業損益(+119億円)とも改善
- 当期純損失は、国内の早期退職優遇制度の実施に伴う特別損失を約840億円計上したことなどにより、943億円の赤字

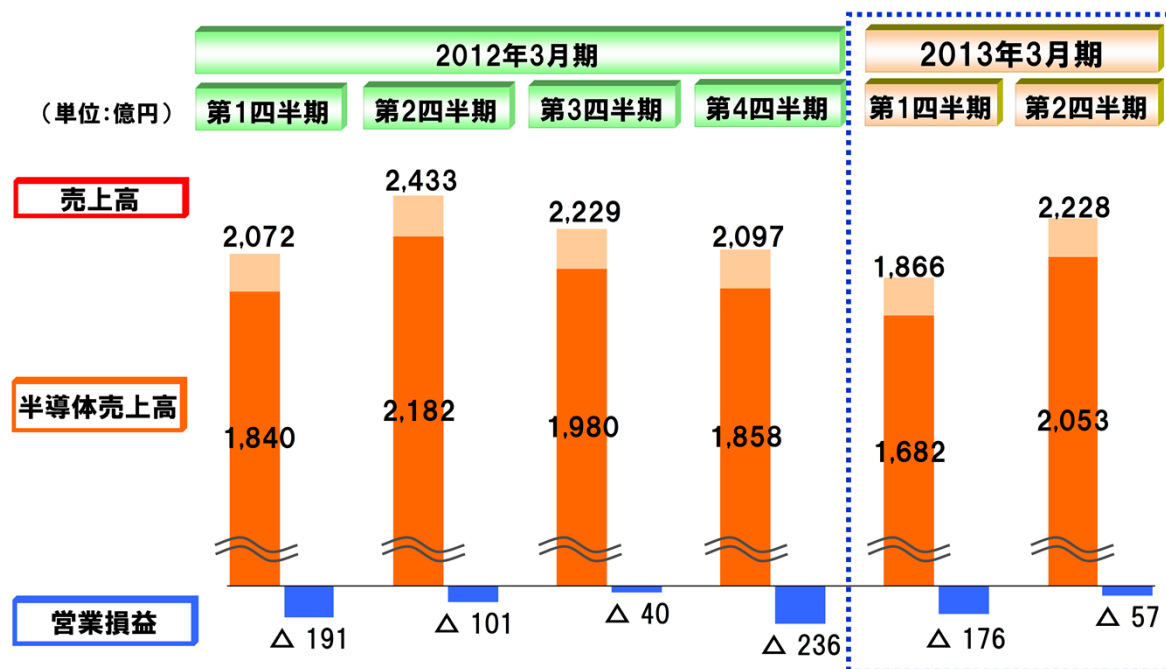
2012年3月期		2013年3月期			
(単位:億円)	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前四半期比	想定比(8/2公表)
売上高	2,433	1,866	2,228	+362 (+19%)	+34 (+2%)
半導体売上高	2,182	1,682	2,053	+371 (+22%)	△35 (△2%)
営業損益	△101	△176	△57	+119	+22
経常損益	△131	△176	△68	+108	+51
四半期純損益	△88	△208	△943	△736	△126
1US\$=	79円	81円	79円	2円 円高	-
1ユーロ=	113円	106円	98円	8円 円高	-

こちらが、第2四半期の業績のサマリです。

半導体売上高は、第1四半期に情報システム統合の影響により、一時的に減少しましたが、第2四半期には同影響が解消し、大型カスタム案件が牽引したことから、前四半期比で22%増収の2,053億円となりました。営業損益も前四半期比で119億円改善し、57億円の赤字となりました。

当期純損失は、国内の早期退職優遇制度の実施に伴う特別損失を約840億円計上したことなどにより、943億円の赤字となりました。

四半期業績推移



5 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

こちらが、四半期ごとの業績推移です。

第2四半期の半導体売上高、営業損益はともに、前ページでお話した要因により、前四半期比で改善しております。

2013年3月期 第2四半期 半導体売上高の事業別状況①

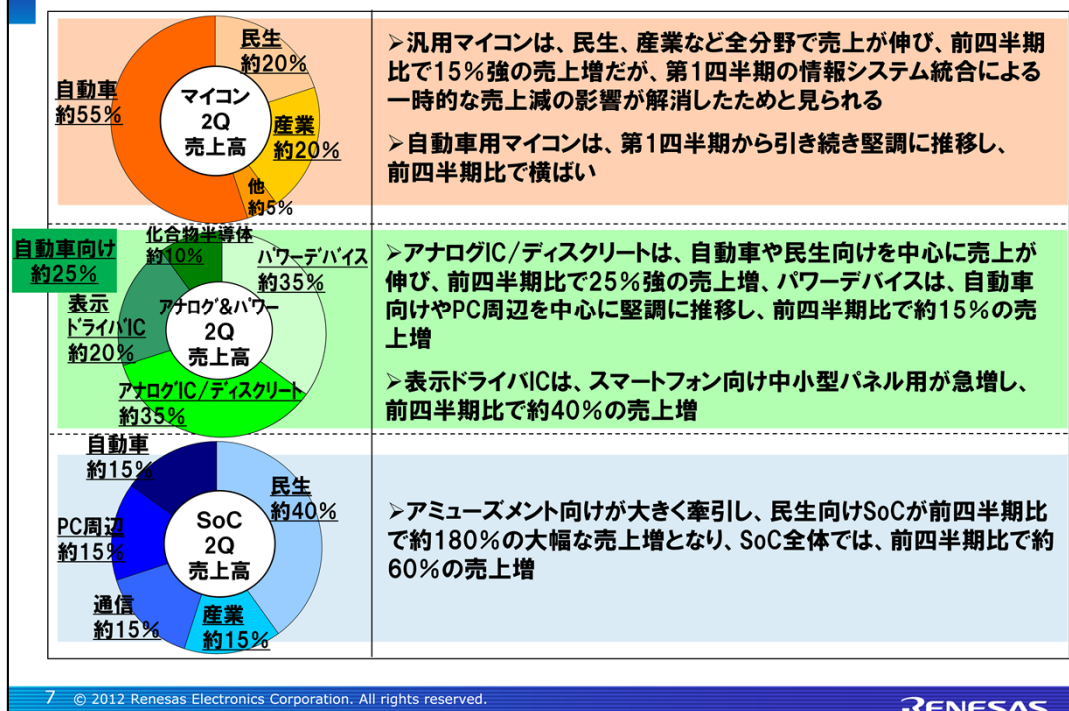
- 第2四半期は、特にA&P、SoCにおける大型カスタム案件が牽引し、半導体売上高は前四半期比で22%増と大幅に改善

(単位:億円)	2012年3月期	2013年3月期		
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前四半期比
半導体売上高 計	2,182	1,682	2,053	+371 (+22%)
マイコン	875	754	809	+55 (+7%)
アナログ&パワー 半導体(A&P)	672	547	681	+133 (+24%)
SoC	632	344	550	+206 (+60%)
その他半導体	3	37	13	△24 (△64%)

続いて、第2四半期の事業別の半導体売上高です。

第2四半期は、特にアナログ&パワー半導体、SoCにおける大型カスタム案件が牽引し、半導体売上高は前四半期比で22%増と大幅に改善しました。

2013年3月期 第2四半期 半導体売上高の事業別状況②



7ページは、第2四半期の各事業別の売上について、さらに分野別での状況を示したものです。

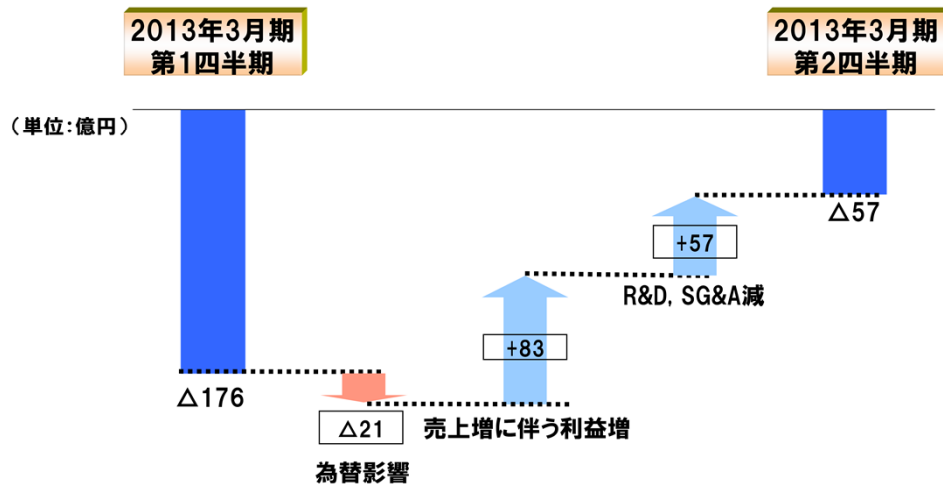
マイコンについては、汎用マイコンにおいて、民生、産業など全分野で売上が伸び、前四半期比で15%強の売上増となりましたが、第1四半期の情報システム統合による一時的な売上減の影響が解消したためと考えられます。一方、自動車用マイコンは、第1四半期から引き続き堅調に推移し、前四半期比で横ばいとなりました。

アナログ&パワー半導体については、アナログIC/ディスクリートにおいて、自動車や民生向けを中心に売上が伸び、パワーデバイスにおいて、自動車やPC周辺向けを中心に堅調に推移し、双方で前四半期比増収となりました。表示ドライバICにおいても、スマートフォン向け中小型パネル用が急増し、前四半期比で約40%の売上増となっております。

SoCについては、アミューズメント向けが大きく牽引し、民生向けSoCが前四半期比で約180%の大幅な売上増となり、SoC全体では、前四半期比で約60%の売上増となりました。

2013年3月期 第2四半期 営業損益（前四半期比）

- 営業損益は、売上増に伴う利益増、R&D費用の効率化、SG&Aの抑制などにより、前四半期比で119億円の改善

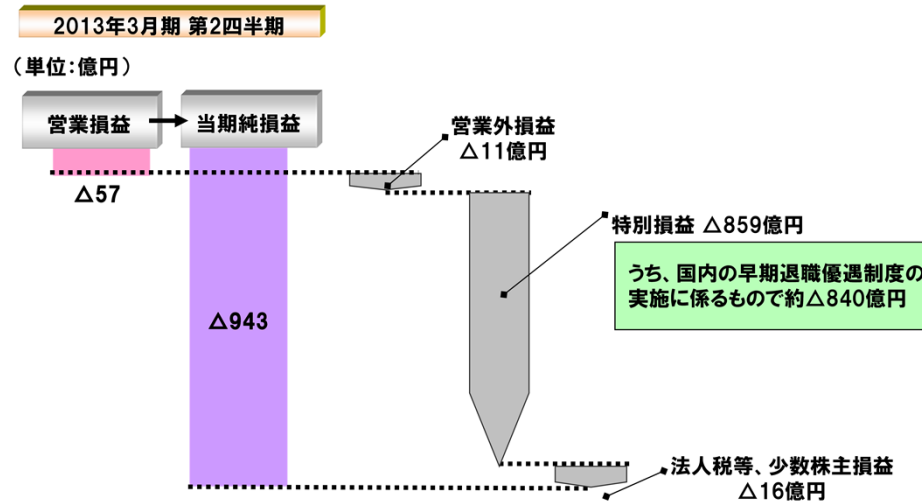


8ページは、第2四半期の営業損益について、前四半期からの増減で示したものです。

第2四半期は、売上増に伴う利益増、R&D費用の効率化、SG&Aの抑制などにより、前四半期比で119億円の改善となりました。

2013年3月期 第2四半期 当期純損益

- 営業損益は大幅に改善したものの、早期退職優遇制度の実行などにより、859億円の特別損失を計上し、当期純損失は943億円の赤字



9ページは、第2四半期の当期純損益について、営業損益からの増減を示したものです。

第2四半期の営業損益は大幅に改善したものの、早期退職優遇制度の実行などにより、859億円の特別損失を計上し、当期純損失は943億円の赤字となりました。

バランスシートの状況

(単位:億円)	12/3末	12/6末	12/9末
総資産	8,582	7,857	7,483
うち 現金及び現金同等物	1,319	870	696
うち たな卸資産	1,518	1,638	1,479
負債合計	6,317	5,854	6,414
うち 有利子負債	2,583	2,465	2,393
株主資本	2,434	2,227	1,283
純資産合計	2,265	2,003	1,068
D/Eレシオ(グロス)	1.19倍	1.29倍	2.46倍
D/Eレシオ(ネット)	0.58倍	0.83倍	1.74倍
自己資本比率	25.4%	24.4%	13.0%

(注)①現金及び現金同等物:「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。

②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「長期借入金」

③自己資本:「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

続いて、10ページは、バランスシートの状況です。

早期退職優遇制度の実施を中心とした当期純損失を943億円計上したことにより、株主資本は前四半期比で大幅に減少しましたが、主要株主及び主要取引行から新規融資及び保証金をいただき、財務基盤を強化してまいります。

キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)	2012年3月期			2013年3月期		
	第2四半期	上期	通期	第1四半期	第2四半期	上期
営業活動による キャッシュ・フロー	80	△211	△97	△181	46	△135
投資活動による キャッシュ・フロー	△178	△326	△551	△107	△98	△205
フリー・ キャッシュ・フロー	△97	△537	△648	△287	△52	△340

11ページは、キャッシュ・フローの状況です。

第2四半期について、営業キャッシュ・フローは、927億円の税金等調整前四半期純損失を計上したものの、早期退職優遇制度の実施に伴う約840億円が第2四半期にはキャッシュアウトとして発生しないため、事業構造改善引当金として計上したことなどにより、46億円の収入となりました。

フリー・キャッシュ・フローについては、投資キャッシュ・フローにより、52億円の赤字となったものの、前四半期比では235億円改善しています。

早期退職優遇制度の実施により想定される支出影響を除けば、キャッシュフローは第1四半期を底に改善に向かっています。

II. 2013年3月期 通期業績予想

次に、2013年3月期 通期業績予想についてご説明いたします。

2013年3月期 連結業績予想

- 2013年3月期通期の連結業績予想は前回予想(8月2日公表)を据え置き

2013年3月期通期の連結業績予想(8月2日公表)

(単位:100万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期	868,000	21,000	10,000	△150,000
(対前期増減率)	△1.7%	-	-	-

欧州の債務・金融問題の長期化、中国をはじめとする新興国経済の更なる減速、日中関係の不透明化による需要への影響など、顕在化しつつあるリスク要因が今後当社の業績に与える影響を慎重に精査する必要があり、こうした分析を進め、今後業績予想の修正が必要となった場合には速やかに公表いたします。

2013年3月期 通期の連結業績につきましては、本年8月2日に公表した前回予想を据え置いております。

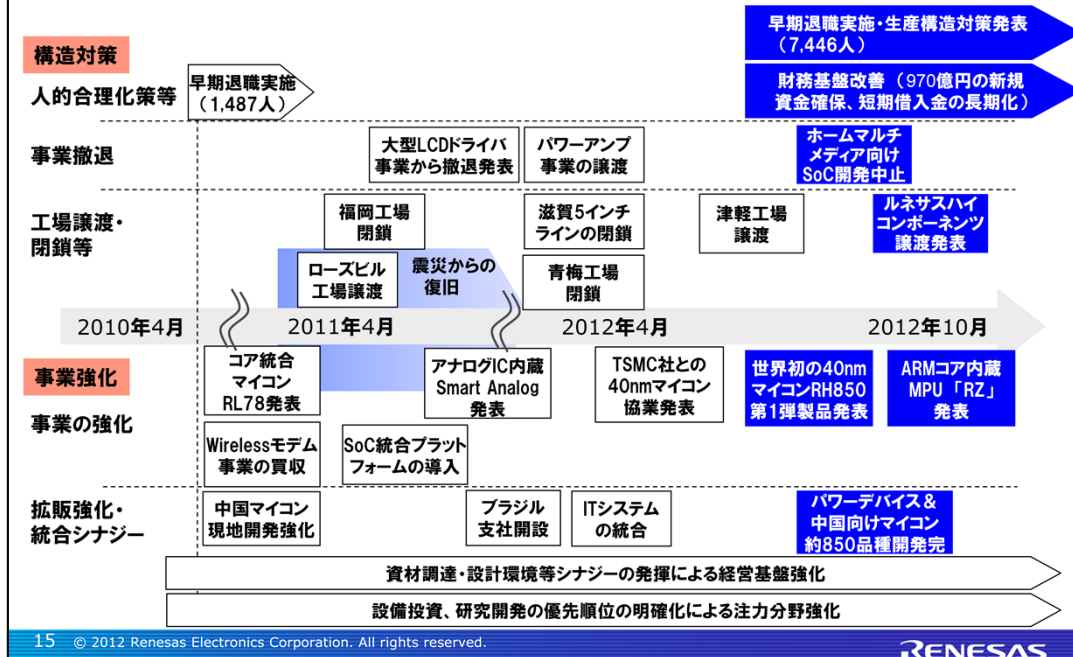
ただし、欧州の債務・金融問題の長期化、中国をはじめとする新興国経済の更なる減速、日中関係の不透明化による需要への影響など、顕在化しつつあるリスク要因が今後当社の業績に与える影響を慎重に精査する必要があり、こうした分析を進め、今後業績予想の修正が必要となった場合には速やかに公表いたします。

Ⅲ. 人的合理化施策と生産構造対策の進捗状況

続いて、人的合理化施策と生産構造対策の進捗状況について、ご説明いたします。

収益基盤の強化に向けたこれまでの取り組み

- 2010年4月統合以降、統合シナジーの実現、構造対策の実行を柱に掲げ、各種施策を着実に実行



まず、収益基盤の強化に向けてこれまで取り組んできたことを簡潔にご説明いたします。

2010年4月の統合以降、統合シナジーの実現、構造対策の実行を柱に掲げ、各種施策を着実に実行してまいりました。

こちらの図は本年8月2日に発表した内容を更新したものです。本年8月以降、財務基盤の強化や7,446人の早期退職実施、さらにはルネサスハイコンポーネンツの譲渡を発表する一方で、マイコンラインアップの拡充など、注力事業の強化も行っております。

人的合理化策：早期退職優遇制度の実施結果について

早期退職優遇制度の実施概要(2012年7月3日公表)

- | | |
|----------|--|
| (1) 対象者 | 当社及び国内連結子会社社員 |
| (2) 募集期間 | 2012年9月18日から9月26日の間 |
| (3) 退職日 | 2012年10月31日 |
| (4) 優遇措置 | 通常の退職金に特別加算金を加算して支給する。また希望者に対し、外部の就職支援会社による再就職支援を実施する。 |

募集人員の上限等は特に定めておりませんが、5千数百名の応募を想定しております。

実施結果(2012年10月16日公表)

- | | |
|---------------|------------------------------|
| (1) 応募人数 | 7,446名 |
| (2) 本件に係る特別損失 | 約840億円(2013年度3月期第2四半期において計上) |
| (3) 人件費削減効果 | 年間約530億円 |

当初の応募人数の想定である5千数百人を上回る応募結果となりましたが、国内連結子会社を含む当社グループ全体での応募人数であり、営業・生産を含む当社グループの事業活動への大きな影響はありません。

人的合理化策としては、本年7月3日に早期退職優遇制度の実施を発表し、本年10月16日には、その実施結果を発表しました。

応募人数は7,446人となり、本件に係る特別損失は約840億円となりました。また、人件費の削減効果は年間約530億円を見込んでいます。

当初の応募人数の想定である5千数百人を上回る応募結果となりましたが、国内連結子会社を含む当社グループ全体での応募人数であり、営業・生産を含む当社グループへの事業活動への大きな影響はありません。

生産構造対策の進捗状況

- 2012年7月3日に生産構造対策を公表後、第一号案件として、後工程拠点のルネサスハイコンポーネンツの譲渡を決定するなど、構造対策は計画どおり進捗

	方針	現在の国内 拠点数/ライン数	構造対策後の国内 拠点数/ライン数
前工程	✓ 大口径・微細化 ✓ 先端製品のアウトソース化 ✓ 特殊製品の自社生産継続	9拠点14ライン	7拠点9ライン
後工程	✓ 海外生産シフトの加速 ✓ 国内外のサブコン活用強化	9拠点 → 8拠点 (13年1月)	2拠点

12年10月12日発表

- ✓ 13年1月1日付でルネサスハイコンポーネンツ(青森工場)*1をアオイ電子*2に譲渡予定
- ✓ 青森工場は、受託生産が全生産の9割を占めており、12年7月の公表時に「1年をめどに譲渡を検討する」と位置づけていた工場
- ✓ 同年同月付で青森工場の受託生産に関わるルネサス東セミ*3の営業事業も譲渡予定
- ✓ 業績に与える影響は、2013年3月期の連結業績予想に織り込み済み

*1:株式会社ルネサスハイコンポーネンツ(青森県北津軽郡鶴田町)
*2:アオイ電子株式会社(香川県高松市)

*3:株式会社ルネサス東日本セミコンダクタ(東京都中央区)

17 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

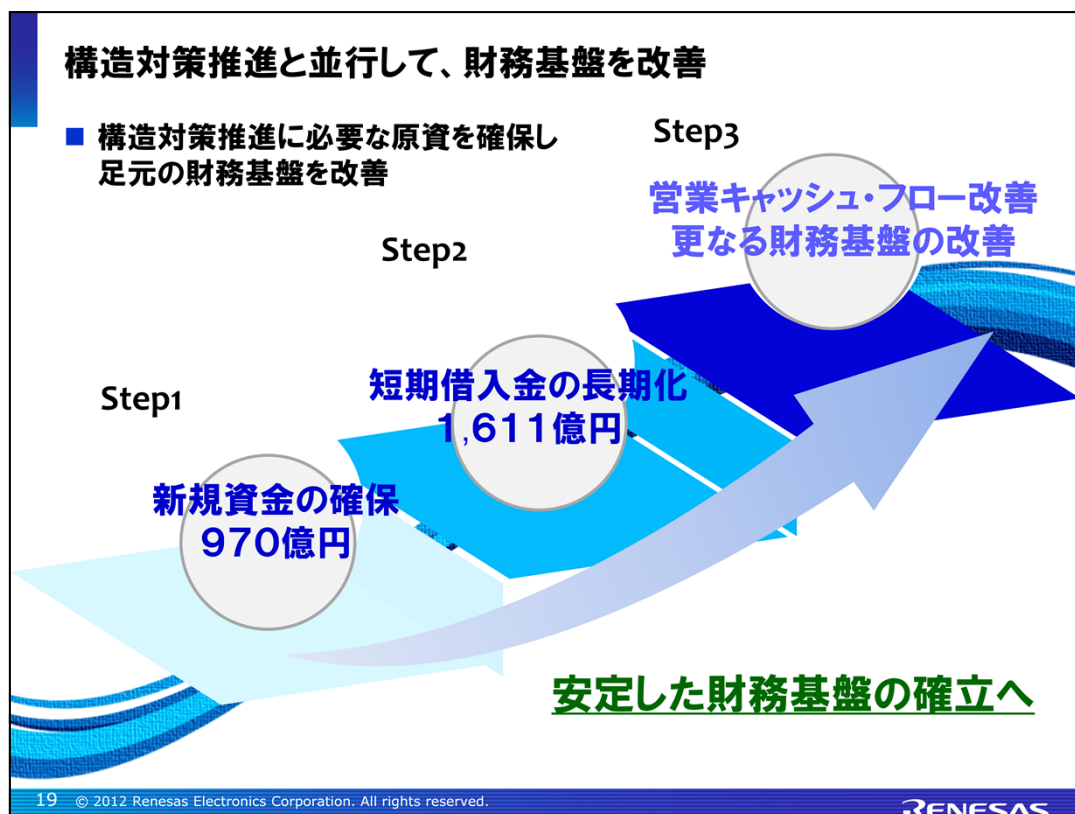
RENESAS

本年7月3日には、生産構造対策を発表し、国内拠点の方向性についてご説明しましたが、同対策の第一号案件として、青森にある後工程工場、ルネサスハイコンポーネンツの譲渡を決定しました。13年1月1日付で、ルネサスハイコンポーネンツをアオイ電子株式会社様に譲渡する予定であり、構造対策は計画どおり進捗しています。

これにより、当社の日本国内の後工程拠点は8拠点となり、さらに発表した構造対策を行った後は、2拠点となる見込みです。一方、国内前工程拠点については、現在の9拠点14ラインから、構造対策後には、7拠点9ラインとなる見込みです。

IV. 財務基盤の強化に向けて

続いて、財務基盤の強化に向けた取り組みについてご説明いたします。



先にお話した構造対策の推進と並行して、当社は財務基盤の改善を進めています。

まずはステップ1として、構造対策推進に必要な原資として、新規資金970億円を確保しました。

次にステップ2として、短期借入金の長期化を実現し、足元の財務基盤を改善しました。こうした取り組みの結果、ステップ3として、営業キャッシュ・フローを改善し、安定した財務基盤の確立を図ってまいります。

次ページより、各ステップの詳細についてご説明いたします。

Step 1: 新規資金の確保

■ 主要株主及び主力取引行からの資金支援及び保証金

- ✓ 2012年10月1日付で、主要株主3社より、計495億円の資金支援及び保証金を受領
- ✓ また、同月同日付で、主力取引行4行からの、計475億円のシンジケートローンを実行



970億円の新規資金の確保により、構造対策の着実な実行へ

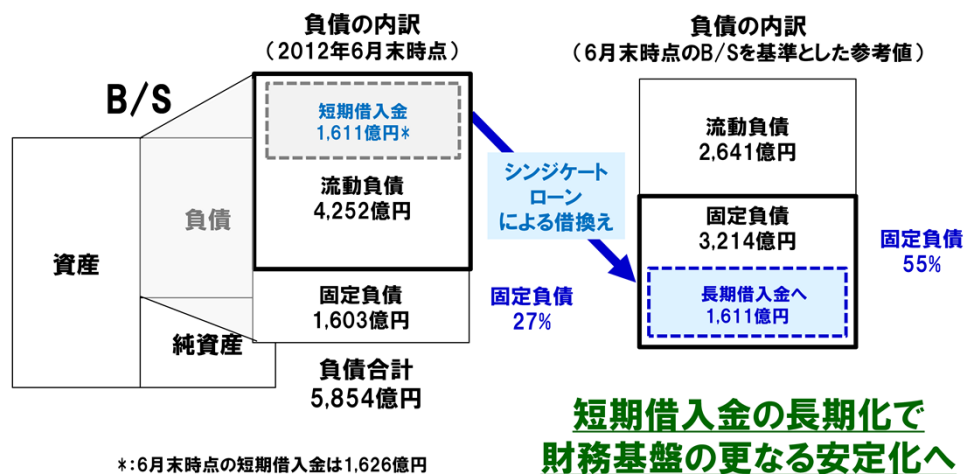
まず、ステップ1として、主要株主及び主力取引行から資金支援及び保証金をいただきました。

具体的には、本年10月1日付で、主要株主3社より、計495億円の資金支援及び保証金を受領しており、また同日付で、主力取引行4行からの475億円のシンジケートローンを実行しています。これにより、計970億円の新規資金を確保しており、構造対策の着実な実行に充ててまいります。

Step 2: 短期借入金の長期化

■ 短期借入金の長期借換え

- ✓ 2012年9月28日付で、主力取引行をアレンジャーとして、シンジケートローン契約を締結
- ✓ 2012年10月1日までに、1,611億円の短期借入金を借り換え、長期化を実現



21 © 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

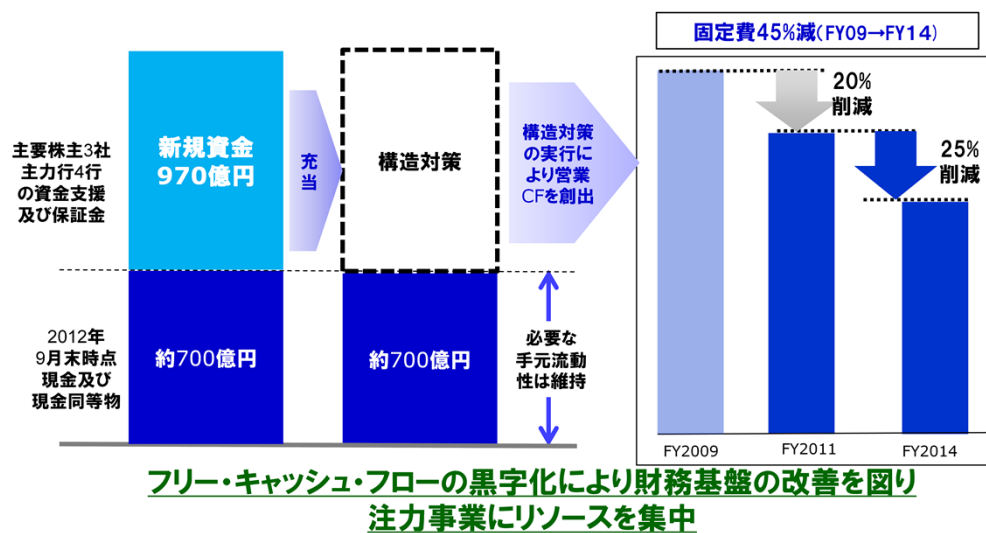
ステップ2としては、短期借入金の長期化を行いました。

本年9月28日付で、主力取引行をアレンジャーとして、シンジケートローン契約を締結し、10月1日までに、計1,611億円の短期借入金を長期借入金として借り換え、財務基盤の更なる安定化を実現しました。

Step 3: 営業キャッシュ・フロー改善による財務基盤改善

■ 構造対策の着実な実行により収益基盤を改善

- ✓ 新規資金を構造対策費用に充当し、手元流動性を維持しつつ構造対策を着実に実行
- ✓ 2014年度末までに45%の固定費削減、営業CFの改善を実現し、財務基盤を強化



ステップ3としては、営業キャッシュ・フロー改善による財務基盤の改善を進めています。

970億円の新規資金を構造対策費用に充当し、手元流動性を維持しつつ、構造対策を着実に実行します。これにより、2014年度末までに45%の固定費削減を実現し、営業キャッシュ・フロー改善により、財務基盤を強化していきます。また、フリー・キャッシュ・フローの黒字化により、財務基盤の改善を図り、注力事業にリソースを集中してまいります。

まとめ

- 2013年3月期 第2四半期の売上高及び営業損益は、ほぼ想定どおりに着地
- 国内における早期退職優遇制度の実施により、第2四半期において約840億円の特別損失を計上した一方、年間約530億円の人件費削減効果を見込む
- ルネサスハイコンポーネンツ(青森工場)の譲渡決定を発表するなど、生産構造対策は着実に進展
- 主要株主及び主力取引行より970億円の新規融資及び保証金を確保、短期借入金の長期への借り換え(1,611億円)を実現するなど、財務基盤を着実に改善

最後にまとめです。

2013年3月期 第2四半期の売上高及び営業損益は、ほぼ想定どおりに着地しました。

国内における早期退職優遇制度の実施により、第2四半期において約840億円の特別損失を計上した一方、年間約530億円の人件費削減効果を見込んでいます。

第2四半期は、ルネサスハイコンポーネンツの譲渡決定を発表するなど、生産構造対策は着実に進展しました。

主要株主及び主力取引行より970億円の新規融資及び保証金を確保、短期借入金の長期への借り換えを実現するなど、財務基盤を着実に改善いたしました。

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。



ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2013年3月期 第2四半期の決算概要のご説明は以上でございます。
本日は有難うございました。